



携帯 QR コード

会報誌 **有縁千里**

うえんせんり Vol.27

今回の特集

- ・相続と税理士さん
- ・台湾のことわざ
- ・有縁会のおしらせ
- ・本のプレゼント

 **西村交益社**
株式会社
<http://www.koekisha.info/>



「人間臨終図巻」

郷土の偉大な作家、山田風太郎氏の作品に、「人間臨終図鑑」というものがある。十五歳から百二十一歳までに亡くなった、九二三名の人生の最後を綴っている。

「臨終」などという言葉を使うのを、正月早々不謹慎といふなかれ。死が不幸なら、どんなに素晴らしい人生を送っても、最後には全ての人が不幸になってしまう。死は悲しいことかもしれないが、決して不幸ではない（閑話休題）。

二十三年前に手に入れてから、人生の折々に、この本を紐解く。ようは、その年令に達した時に、誰がどのように亡くなっているかを、確認するのだ。高杉晋作二十八歳、坂本竜馬三十二歳、ジョン・レノン四十歳、三島由紀夫四十五歳……

今年は五十歳のところを見る事になる。五十歳で亡くなったのは、西郷隆盛、「坂の上の雲」の秋山真之とロシア最後の皇帝のニコライ二世、或いは、足利義満に芭蕉、そして竹久夢二など……

栄耀栄華を極めた者、悲劇的な最後を迎えた者、志半ばで倒れた者、人生それぞれである。天は人の上に人を作っていないが、生れ落ちる環境は、まさに様々。

けれど、生れ落ちたままの状況が続かないのも人生だ。

ここまで生きてきて思うのは、歴史上の英雄と人生を競争してもダメだということ。競うのは自らの内面とで、自分以外とは共生すべきでは……

最近思うのだが、我々は出来ない理由を外部環境に求めた時点でアウト。自分のおかれている状況は特別だから出来ない、考えた時はもうだめ。限界集落も過疎地も高齢者地帯でも、だからこそそのチャンスも活き方もある。施策は無限である。

人生の傍観者であるか、当事者になるか？傍観者になるには、もったいないくらいいろいろなことが起こるのが人生だと、五十年も生きると思えてきた。時には第三者的に傍観者として、冷静に人生を見ることは大切だが、そもそも、人ごとのように人生を考えられるほど、残された時間はない。英雄と比べるより、自らの駆けっこである。人生の折り返し点は、とっくに過ぎていく。どう考えても、頭も体も元気でいられるのもうほんのしばらく……傍観者ではなく、達観者？になるには、時間が足りない……

こんな時に、城山三郎氏の次の言葉を思い出す。「人生の持ち時間に大差はない。問題はいかに深く生きるか、である。深く生きた記憶をどれだけ持つ

不要の方はお手数ですが下記迄ご連絡ください。今後一切送付しないよう致します。TEL 079-662-5909

たかで、その人の人生は豊かなものにも、貧しいものにもなるし、深く生きるためには、ただ受け身ではなく、あえて、挑むとか、打って出ることも、肝要となろう」

如何に深く生きるか? いやいや、どうやったら深くなるのが、そもそも問題なのではあるが…

どうやら、今年も厳しい年になりそうやなあ…てなことを、考えた年頭であった。



■ 相続と税理士さん

知り合いの、税理士さんから、「相続については、西村さんのお客様には関係があるでしょう」と、次のような話を教えてくれました。

相続というのは皆さん一生に二回から四回(自分の両親と配偶者の両親の場合とを考えると)程度経験すると思います。めったに経験することがないので、そうなった場合どうすればよいか分からないことだらけです。

自分の親は財産がないから相続は関係ない…なんていうことはありません。相続税については関係ないかもしれませんが、相続については関係があります。例えば相続人が子供二人で親が土地と建物を持っている場合、よほどの豪邸でなければ相続税について関係ありません。しかし相続については関係があります。その土地と建物はどちらが相続するか、共有にした場合、その後処分の際にもトラブルになる可能性があります(一人が売りたいと言ってももう一人が同意しないと売れないため)。

データによると、相続財産が二百万円〜五百万円の場合に、一番トラブルが発生しているみたいです。

そうならないためにもどうすればよいか、一つの方法としては遺言があります。遺言書には三種類(自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言)あり、それぞれ法律の要件を満たしていないと無効になってしまいますので注意が必要です。詳しい手順や内容について、お知り

になりたい方は、お尋ねください。

相続というものは発生(被相続人の死亡)してから考える人が多いです。また、「まだ遺言書は書かなくても大丈夫」と思っている内に、歳をとって意志表示が出来ない方もいらっしゃると思います。遺言書は何度でも書きなおすことが出来ますので、早い間から考えておくことにこそとはありません。

また、相続について税理士等に相談する場合は、税理士試験で相続税の科目に合格している税理士に相談したほうが良いでしょう。税理士試験は十一科目中、五科目に合格すればよいので、相続税に合格しなくても税理士になれます。つまり相続税について何の勉強もしなくても相続税の相談に乗ることが出来るのです。お医者さんで言えば内科で眼科の手術をしてもらうようなものです。

税理士にも得意、不得意があります。あなたの税理士の得意分野を聞いてみましょう。

(西宮市 松田力税理士事務所通信第十二号より抜粋)



■ 一世入、親像作人客

半世紀余前、上海で寝食を共にした友人が、流れ流れて、現在、台湾の日本語放送でアナウンサーをしています。その彼が、次のような話をしてくれました。

『台湾語のことわざで、「一世入、親像作人客」と言うものがあります。うちの番組で台湾語講座というのがあり、八十歳近いおじいさんに来てもらっているのですが、一人で録音操作ができないため、よく横について録音につきあっています。

この台湾語講座は、ことわざを紹介する五分の番組です。その時、このことわざが出ました。録音の合間におしゃべりもするので、そこで、このことわざについて少し話したんです。

本来の意味は、「一生は人の家をお客さんとして訪れているようなもの」ということで、つまり、「いつかは離れるときが来る。みな死ぬ日がある。だから、くよくよしないで一日一日を大切に、愉快に生きよう」ということわざなんです。

しかし、そのおじいさんが、160回も話したとお客さんとして世界にいる、地球にいると解釈した場合、「去るべき日は、立つ鳥、あとを濁さず」と、いった感じで消えたい」ともいわれ

すね、などと話しました。

お客さんなら、みっともないまねはしないでお別れしましょう、といった感じでしょか。お客さんのだから、おとなしく、礼儀たたく、楽しく、相手を不愉快にせず、逆に喜んでもらえるように、そしておいとまするときにも、あとを濁さず、と考えますよね。また、引越する場合、部屋をびかぴかに掃除してから去るというのも、このことわざに通じると思います。地球を汚さないで、と考えればエコですよね。』

毎週ひとつのことわざが出ますので、たくさんあるのですが、この、「人生はお客さんになるようなもの」というのは印象に残りました。目立たなくともまじめに、一生懸命生きることで、この世のお客さんとして暮らしていきたいと思います。もちろん、本来の意味である、一日一日を大切に、前向きに生きるということも大切です。

この番組は次のURLで聴けるはずです。

[mms://play.ccodntech.com/vod09/wma/5201007082115.wma](https://play.ccodntech.com/vod09/wma/5201007082115.wma)

台湾の日本語放送は、「玉山一家」とインターネットで検索をかけることで出てきます。一度、彼の美声をお聞きください。

第12回有縁会のお知らせ

二月十二日(土) 十四時～ 於つるぎ会館

前回の二六号に、著書を紹介しました橋爪謙一郎氏に、講師として東京から来ていただけることになりました。大切な人を亡くされた方が、どのようにその悲しみに折り合いをつけ、人生を歩いていけばよいか。また、悲しみを抱えている方に、どのように接すればよいか、について、お話いただきます。講演の詳しい内容については、同封のチラシをご覧ください。



■ 本の紹介



角幡 唯介著「空白の五マイル チベット、世界最大のツアンポー峡谷に挑む」

集英社 一六八〇円

小難しい本ばかり読んでみると、思われているかもしれないですが、本当は役に立たない本が好きです。役に立たない本ほど面白いのです。そんな本を今回は一冊ご紹介します。

会社を辞めて、地図に載っていない、伝説的未探検地と呼ばれた空白の五マイルを走破！……だからどうなの？でも、命の危険や体力の限界と競い合いながら、自らの人生を賭け、そこを目指す。臆病で怠け者の私には、到底無理な話。だからこそ、読んでいて、血湧き肉踊る！こんな無謀なことに挑戦する若者がいる！日本はまだまだ捨てたものではない。この本は、第八回開高健ノンフィクション賞受賞作であります。

この本を抽選で三名の方へプレゼントします

応募はハガキ又は電話で（締切りは二月末日）

急募 パートタイマー

明るく、世話好きな方を求めています

飛び込み営業・ノルマは一切ありません。

- 仕事内容 主にお客様のお世話をして頂きます
- 勤務時間 週 20 時間迄
- 勤務地 養父市内
- 必要資格など 普通運転免許・携帯メールを使える方
- 時給 900 円～(各種手当有り)

詳しくは、お気軽にお問い合わせ下さい。

079-662-5909(担当者:岡本)



静夜思

この冬は年末年始に思わぬ雪で：けれど、二〇一〇年の元旦も大雪だったと、日記には書いておりました。昨年の記憶も曖昧とは：まあ、最近はず日の夕食を思い出せないなので、昨年の話など忘却の彼方なのは当然でしょう。

子供の頃は、朝雪が積もっていると大喜びでしたが、今はちよつとウンザリ：自然の営みは何も変わらないのに、その時の立場で評価も変わる。勝手なものです。せめて、ご縁のある方には、評価を変えられないようにしないと、見捨てられてしまう：それこそ、忘却の対象にならないように、努力しなければ！と、心に誓う雪景色の美しい朝でした。この美しさを、じっくり味わう人生の余裕を持たないといけませんなあ。

